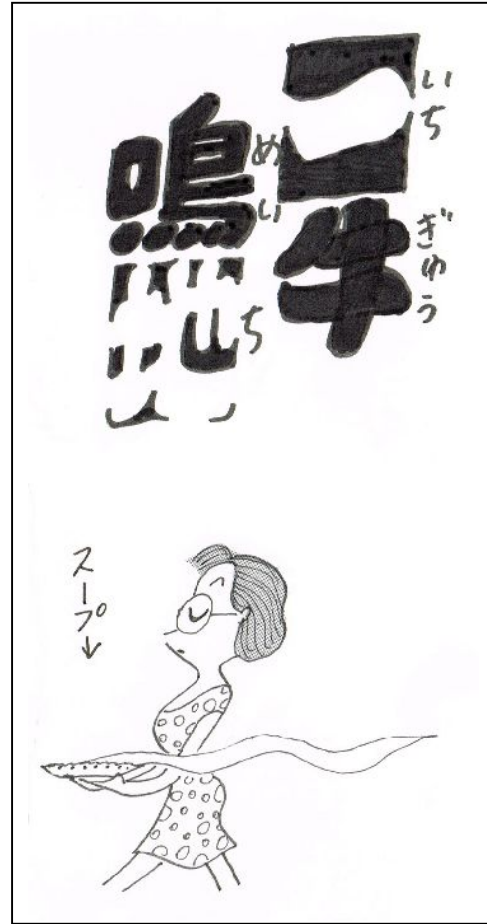


先週の回答



「一牛鳴地は近すぎる」
 「お言葉ですが、一牛鳴地といえますと？」
 「一頭の牛の鳴き声が聞こえるほど接近した距離のことだ」
 「お言葉ですが、今どき牛を飼ってる家なんてないでしょう」
 「昔はこの農家でも飼っていたんだ」「すると」
 「昔のことわざだ」
 「今でいうと？」
 「スープの冷めない距離。近からず遠からず、遠からず近からず」
 「どっちなの？」
 「だから遠くもなく近くもない、どっちつかずの距離がスープの冷めない距離

だ」
 「具体的には？」
 「まあ、五、六軒はなれた場所、その距離が理想的なんだ嫁・姑にとつては」
 「うちとおばあちゃんちがそれですね」
 「それだから、うまくいっているんだ。毎日顔をつき合わせてないですむし、何かあったらすぐ駆けつけられるから」
 「毎日顔をつき合わせていると、どうなるの？」
 「箸の上げ下ろしまでやかましく言ううるさい姑と負けずに意地悪な鬼嫁のバトルを避けるにはスープの冷めない距離が理想だということだ」
 「なるほど・・・だけど、おばあちゃんがこぼしてたよ」
 「・・・」

「五軒しか離れてないのに、お隣の奥さんと長話して、次の山田さんの奥さんとその隣の木村さんの奥さんともおしゃべりして、いつも冷めたスープしか飲んだことがないって」
 「・・・」
 「どうしてあんなおしゃべり好きな嫁をもらったのかってパパをうらんでたよ。うちの場合、一牛鳴地のほうがいいんじゃないの」
 「・・・」



